

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌学院大学
設置者名	学校法人 札幌学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 http://www.sgu.ac.jp/information/financial.html
収支計算書又は損益計算書	資金収支計算書 P1～6
財産目録	事業活動収支計算書 P7～8 財産目録 P11
事業報告書	監事による監査報告書 P12
監事による監査報告(書)	事業報告書 http://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000001jh8r-att/report2018.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ(以下のURLを参照してください。) http://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000005a40k.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ(以下のURLを参照してください。) http://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000005a40k.html (本学HP) https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=156&page=1 (大学基準協会 HP)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的 (公表方法: 履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 変化する現実に適応可能なマネジメント能力を開発する。 (2) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を育成する。 (3) 環境適合・持続可能性の視点と行動における戦略的思考を育成する。 (4) 実践教育を通じて協働の精神と自律する力を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に経営学に関する現代的、実践的な専門知識を修得していること。 (2) 自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を備え、環境に適合する経営的、戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 「現代的、実践的な専門知識」を育成するため、1年次から経営学基礎科目を配置し、2年次には基本科目群、3年次に展開科目群を配置して段階的・体系的に専門知識を修得できるようにする。体験型学習である実践科目群を、2,3年次に配当し、実践的な専門知識を修得できるようにする。ゼミナール学習と連動して効果的・確実な知識修得が可能になるようにする。 (2) 「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナール科目群とそれと連動した実践科目群、国際科目群、および情報系の専門科目を編成し配置する。特に、今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。 (3) 「問題解決能力」を育成するため、現実社会における課題発見力・解決力を養う場としての体験型の実践科目群を編成し配置する。これらを専門教育課程の中心におき、それと連動する専門科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 将来、企業や公組織(役所など)、地域で活躍できる力を身につけるために、経営学科で行なうフィールド実践に率先して参加し、経営実践の学修に取り組む意欲のある人。 (2) 将来、企業の経営者や経営管理者として活躍する基礎をつくるために、経営学を深く学ぼうとする人。 (3) 将来、自分で会社を創るという目標を持ち、あるいは家業(会社、商店、農業、酪農業、漁業、林業など)を継承する予定で、意欲的にビジネス感覚を身につけようとする人。 (4) 将来、企業の輸出・輸入・現地生産などの国際業務に携わろうとする人。あるいは起業または昇進で国際企業の経営者を目指す人。 (5) 将来、経営学部で教職「商業」の免許を取得して、高等学校の教諭を目指す人。

学部等名 経営学部 会計ファイナンス学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/ ）
（概要） (1) 会計とファイナンスの知識をベースとしたマネジメント能力を開発する。 (2) 会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を育成する。 (3) 会計とファイナンスの総合的な知識による環境適応能力を育成する。 (4) 協働の精神と自律する力を持った会計人、金融ビジネスパーソンを育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/ ）
（概要） (1) 現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に会計とファイナンスに関する現代的、実践的な専門知識を修得していること。 (2) 自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を備え、社会の持続可能性を追求できる戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/ ）
（概要） (1) 「基礎知識、実践的専門知識」を育成するため、基礎科目群、展開科目群、ゼミナール科目群を設ける。1年次から簿記他の資格取得科目を配置する。 (2) 「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールと国際科目群の中で少人数教育を徹底する。今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。 (3) 「戦略的思考、論理的問題解決能力」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールの中で少人数教育を徹底する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/ ）
（概要） (1) 将来、公認会計士、税理士、国税専門官などの職業会計人や、銀行、証券会社など金融のプロを目指し、会計やファイナンスの資格取得に挑戦する人。 (2) 将来、企業や公組織(役所など)、地域で活躍できる力を身につけるために、会計ファイナンス学科で行なう経営実践の学修に取り組む意欲のある人。 (3) 将来、企業の経営者や経営管理者として活躍する基礎をつくるために、会計学やファイナンスを深く学ぼうとする人。 (4) 将来、企業の貿易や現地子会社の経理財務などの国際業務に携わろうとする人。あるいは起業または昇進で国際企業の経営者を目指す人。 (5) 将来、経営学部で教職「商業」の免許を取得して、高等学校の教諭を目指す人。

学部等名 経済学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/ ）
（概要） (1) 経済学を中心にして、法律学や情報社会など社会科学分野の分析能力を修め、産業社会で活躍する人材を育成する。 (2) 経済学を中心にして、法律学や情報社会などの社会科学分野の専門知識を身につけ、日常生活を豊かにする教養を培う。 (3) 経済学・法律学・情報学・社会学に関連した領域を総合的に修め、市民社会の形成に参加する自律した人間を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/ ）
（概要） (1) 国際的視野と地域視点を持ちながら、複雑に変化する現代経済の諸現象を多角的に分析するための専門知識を修得していること。 (2) 現代の経済ならびに社会に関する様々な情報を収集し、それを論理的に分析する知識と技術を身につけて、自ら現代の経済ならびに社会の諸問題を発見し、解決する能力を修得していること。 (3) より深い人間性と倫理観を身につけ、創造的な思考能力をもって市民社会の形成に参加し、産業社会で活躍できる能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/ ）
（概要） (1) 「多角的に分析するための専門知識」を育成するため、「専門基礎科目群」を配置し、経済的思考力や他の社会科学分野の専門基礎力をアップさせ、経済学と他の社会科学分野ならびに情報学などの基礎的分野に関する知識を養う。「コース科目群」を配置し、各分野の専門性を高める。 (2) 「問題発見、解決能力」を育成するため、4年間一貫したゼミナール教育を設け、専門知識とその応用能力を養い、報告・討論の実践を行う。 (3) 「産業社会で活躍できる能力」を育成するため、「国際経済」、「地域経済」、「キャリアアッププログラム」の3コースを設け、「キャリアアッププログラム」コースには「公共政策（公務員養成）」、「金融（FP）」、「情報（IT）」、「社会調査」の4プログラムを配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/ ）
（概要） (1) さまざまな業種にわたって、ひろく産業社会で活躍することを目指す人。 (2) 幅広い教養と専門知識を求め、教養豊かな社会人を目指す人。 (3) 国際的な視野を持って、国際社会で活躍したいと考えている人。 (4) 地域的な視点を持って、地域社会で活躍したいと考えている人。 (5) 北海道の産業並びに福祉・文化の向上に貢献したいと考えている人。

<p>学部等名 人文学部 人間科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間と人権を尊重する精神を身につけた学生を育成する。 (2) 人間科学科の専門領域である社会、心理・教育、福祉、文化、思想の諸分野の学問的基礎力を養成する。 (3) 既存の学問分野の相互連携と学際的な研究・教育を重視し、人間と人間を取り巻く環境の諸問題に関して広い視野をもつ学生を育成する。 (4) 体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する。 (5) 社会福祉士、精神保健福祉士、学芸員、中学校・高校・特別支援学校教員などの資格をもった専門的な職業人を養成し、地域社会の産業、福祉、文化、教育等に貢献できる学生を育成する。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、個別学問の専門性ととも、その総合としての人間科学の視点と対象の問題分析能力を修得していること。 (2) 自らの思考や判断を説明するためのプレゼンテーション技能と、双方向的発展を可能とするコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 人間と人権を尊重する民主的な精神を身につけ、広い視野で現代の人間と社会の再生に貢献できる創造的、応用的な思考能力と実践力を修得していること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「人間科学の視点と対象の問題の分析能力」を育成するため、「領域科目群」は人間科学の基本を踏まえたうえで、「福祉」、「心理・教育」、「社会」、「文化」、「思想」の5領域の専門科目で構成する。 (2) 「プレゼンテーション技能、コミュニケーション技能」を育成するため、専門教育では、各学年のゼミ、卒業論文の「基幹科目群」を必修科目としてカリキュラムの中心に据え、4年間一貫の段階的な少人数教育を保証する。 (3) 「創造的、応用的な思考能力と実践力」を育成するため、「基本科目群」は専門的な講義科目と、実証的な方法論や実験・実習を学ぶ研究法・実習科目で構成する。上記に加え、他学部、他学科の指定科目と共通教育科目の関連科目の履修とあわせて領域の専門能力を広く深く修得する。さらに、資格関連科目として自由選択科目を配置し、幅広い分野の資格取得に対応する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現代社会が抱える矛盾と人びとの生活の実態に関心を持ち、それらを当事者の視点から理解し解決しようとする人。 (2) 人間の心理を深く知り、教育という営みをとおして、共生社会の実現に貢献しようとする人。 (3) 多様な文化の理解と歴史的思考力を深め、地域の文化の継承と地域社会の活性化に貢献しようとする人。

学部等名 人文学部 英語英米文学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/
（概要） (1) TOEIC スコアCレベル（470 から 730 点）以上の英語能力養成を目指す。 (2) 本学科の専門分野である英語学・英米文学・英米地域研究・異文化コミュニケーション学における深い知識を養成する。 (3) 積極的に国際交流活動に参加する機会を用意する。 (4) 国際化される地域社会、国際社会に貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/
（概要） (1) 人文、社会、自然科学についての幅広い基礎知識の上に、英語圏の言語、文化の専門知識を修得していること。 (2) 自らの思考や判断を説明するためのプレゼンテーション技能と、双方向的発展を可能とするコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 地域社会、国際社会に貢献できる英語運用能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/
（概要） (1) 「英語圏の言語、文化の専門知識」を育成するため、「英語学」「英米文学」「英米地域研究」「異文化コミュニケーション学」の学問領域について体系的に学べるように科目を配置し、英語圏の言語の理解および英語運用能力の向上に結びつける。 (2) 「プレゼンテーション技能とコミュニケーション技能」を育成するため、上記の各分野における専門科目の中でプレゼンテーションやディスカッションの機会を提供する。 (3) 「英語運用能力」を育成するため、英語 4 技能の基盤を成す英語・英米文学や文化に関する総合的な知識を豊かにする科目および 4 技能の向上を図る科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/
（概要） (1) 英語に興味を持ち、高等学校在学中に英検（実用英語技能検定）準 2 級以上を目標に取り組んでいる人。 (2) 大学入学後に英語の実践的運用能力（英検 2 級以上もしくはそれに相当する TOEIC レベル）を身につけたい人。 (3) 異文化、特に英語圏の文化に関心があり、その理解を深めたい人。 (4) 海外留学や国際交流に興味を持つ人。 (5) 英語力やコミュニケーション力を活かしながら社会に貢献することを目指す人。

学部等名 人文学部 臨床心理学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html ）
（概要） (1) 実習教育によって、人との対話能力や感受性、自己表現能力の向上を涵養する。 (2) 臨床心理的アプローチの技法や態度を講義と演習を通じて獲得する。 (3) 実習体験を通じて援助者・被援助者双方の立場を理解し、心理臨床における責任感や倫理観を確立する。 (4) 家庭、学校、職場において、愛他心を持ち行動できる心身を獲得する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html ）
（概要） (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、臨床心理学の専門的知識を修得していること。 (2) 社会の様々な現場や職域における人間心理の理解に基づいて、総合的あるいは専門的心理領域における「心理コミュニケーション力」を修得するとともに、臨床心理学における倫理観のもと、適切な援助を行うための基礎となる総合的あるいは専門的心理領域における「心理的援助スキル」を修得していること。 (3) 臨床心理学の多面的で専門的な学びとともに、心理学に隣接し人間と社会の多様性に関わる総合的な理解を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html ）
（概要） (1) 「基礎知識、専門的知識と技能」を育成するため、「心理臨床の基礎」領域として必修科目である専修基礎科目を配置する。「心理臨床の応用」領域として専修科目を配置し、幅広い心の問題に関心を持ち、卒業論文で取り組むべき個別的な課題を学ぶ。 (2) 「プレゼンテーション・コミュニケーション技能」を育成するため、演習科目を配置する。 (3) 「責任感・倫理観、適切な援助技能」を育成するため、「心理臨床の展開」領域として専修実習科目を配置し、実習を通じて臨床的な感性を養う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修要項 ）
（概要） (1) 他者を支援するために必要な、人間尊重の態度をもつ人。 (2) 人との関わりを通して、自らの潜在的な資質を成長させる意欲をもつ人。 (3) 先入観にとらわれず、柔軟な視点からものごとを考える姿勢をもつ人。 (4) 臨床心理学とその関連領域(福祉、医療、教育など)における実践体験を、それぞれの学問的知見と統合して理解しようという意思をもつ人。 (5) 将来、臨床心理学の知見を活かして、地域に住む人々のさまざまな心の問題を支援したいという意思をもつ人。

学部等名 人文学部 こども発達学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/ ）
（概要） (1) 子どもの身体・感情・思考、社会的相互作用を含む発達の全体像に関する基礎的理解を養う。 (2) 子どもの健全な育成に関する関心・意欲を高め、彼等の学力とその基盤となる健康、文化に関する現代的課題を実践的に解決する能力を養う。 (3) 小学校教諭一種免許状、保育士等の資格を取得し、小学校教諭、地域における子育て支援の指導者を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/ ）
（概要） (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、子どもの発達と教育の専門的知識と問題解決能力を修得していること。 (2) 自らの思考や判断を説明するためのプレゼンテーション技能と、双方向的発展を可能とするコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 子どもに対する共感的な視点を身につけ、保育・教育に貢献できる創造的な実践力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/ ）
（概要） (1) 「専門的知識」を育成するために「心理・発達」、「社会・福祉・教育」の科目群を配置する。また、「問題解決能力」を育成するために、1年次の導入教育から4年次の「卒業研究」まで一貫した少人数教育を保证する。 (2) 「プレゼンテーション・コミュニケーション技能」を育成するため、演習科目や実習科目を配置し、発表や討論を体験させる。 (3) 「共感的視点、創造的実践力」を育成するため、「小学校教職課程」、「保育」の科目群を配置し、教育・保育の現場に即した授業内容を展開する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/ ）
（概要） (1) 小学校の教育に携わりたい人。 (2) 乳幼児や子どもの保育・支援に関わりたい人。 (3) 子どもの発達や心理、教育を学び、社会でいかしたい人。

学部等名 心理学部 臨床心理学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/ ）
（概要） (1) 講義と実習を通じて、人との対話能力や感受性、自己表現能力に基づく「心理コミュニケーション力」を備えた人材を育成する。 (2) 講義と実習を通じて、臨床心理的アプローチの技法や態度とともに、心理臨床における責任感や倫理観についても習得した、「心理的援助スキル」を備えた人材を育成する。 (3) 講義と演習を通じて、人間の心理についての洞察力と自己成長を促進する力を育成し、人間存在に対する深い理解に基づく尊重の精神を備えた人材を育成する。 (4) 地域社会ならびに様々な領域における心理学的課題の理解と解決に資する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/ ）
（概要） (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、臨床心理学の専門的知識を修得していること。 (2) 社会の様々な現場や職域における人間心理の理解に基づいて、総合的あるいは専門的心理領域における「心理コミュニケーション力」を修得するとともに、臨床心理学における倫理観のもと、適切な援助を行うための基礎となる総合的あるいは専門的心理領域における「心理的援助スキル」を修得していること。 (3) 臨床心理学の多面的で専門的な学びとともに、心理学に隣接し人間と社会の多様性に関わる総合的な理解を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/ ）
（概要） (1) 心理学ならびに臨床心理学の基礎領域における必修科目として、心理学基礎領域、演習領域、研究基礎領域の3領域からなる専修基礎科目を配置する。 (2) 心理コミュニケーション力と心理的援助スキルの実践的養成に関わり、心理臨床実習科目と心理臨床・実践職能科目とからなる専修実習科目を配置する。 (3) 臨床心理学とその展開を構成する多様な領域に接し多面的かつ専門的な理解力を養成するため、基礎心理学関連領域、発達・教育心理学関連領域、社会・産業心理学関連領域、医療福祉領域、心理療法関連領域、臨床心理学研究領域ならびに卒業論文の7領域からなる専修科目を配置する。また、心理学に隣接する諸分野についても学びを深め、人間と社会との関係について総合的に理解する力を育成するために心理学関連科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/ ）
（概要） (1) 他者を支援するために必要な、人間尊重の態度をもつ人。 (2) 人との関わりを通して、自らの潜在的な資質を成長させる意欲をもつ人。 (3) 先入観にとらわれず、柔軟な視点からものごとを考える姿勢をもつ人。 (4) 臨床心理学とその関連領域(福祉、医療、教育など)における実践体験を、それぞれの学問的知見と統合して理解しようという意思をもつ人。 (5) 将来、臨床心理学の知見を活かして、地域に住む人々のさまざまな心の問題を支援したいという意思をもつ人。

学部等名 法学部 法律学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
（概要） (1) 人文・社会・自然の幅広い知識を身に付けさせ、社会の現実の一端に触れさせる。 (2) 自らの将来について考える機会を提供し、将来の進路のために努力する姿勢を確立させる。 (3) 一人ひとりの個性を大切に感じる感覚、国際社会における多様性を尊重する精神をはぐくむ。 (4) 法や政治に関する社会現象を学ぶことを通じて、現代社会の諸問題に対する冷静で客観的な分析力を培う。 (5) 法の理念や解釈に関する知識を習得させ、それに基づき現実の紛争に対して妥当な判断を下すことができるようにする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
（概要） (1) 人文・社会・自然の幅広い知識の上に、法の理念や解釈に関する基本的な知識を修得していること。 (2) 自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 一人ひとりの個性や国際社会における多様性を尊重する精神を身につけ、現代社会における諸問題を客観的に分析し、適切な判断を下すことのできる法的な思考能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
（概要） (1) 「法の理念や解釈に関する基本的知識」修得のために、1年次に「憲法入門」、「民法入門」、「基礎ゼミナール」他の導入教育科目を設ける。 (2) 「法的な思考能力」を身につけるために、2年次以降は「アドバンスト」、「スタンダード」、「キャリアアッププログラム」の3つのコースを設けて科目を配置し、コース基礎科目及びコース展開科目の履修を軸に、専門性を高めるとともに、社会科学の隣接分野の科目の履修を通じて視野を広げることを目指す。 (3) 「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」育成のため、「専門ゼミナール」を第2学年以上の各学年に配置し「基礎ゼミナール」とあわせて、問題解決能力と社会人基礎力を向上させる少人数教育を保障する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ http://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
（概要） (1) 大学で他の学生や教員とともに自主的、積極的に知識や能力の獲得に取り組もうと考えている人。 (2) 法学・政治学を学び、現代社会についての理解を深めるとともに、紛争の適切な予防や解決のあり方に関する専門知識を身につけたい人。 (3) 自らの将来について考え、選んだ進路（公務員、法律家、民間企業、国際社会など）にすすめるよう努力する人。 (4) スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などの活動で、自主性、社会性、協同性を育みたい人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。）

<http://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo00001je2h-att/soshiki2019.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
経営学部	－	12人	3人	3人	0人	0人	18人
経済学部	－	11人	4人	3人	0人	0人	18人
人文学部	－	28人	10人	5人	0人	0人	43人
心理学部	－	8人	5人	1人	0人	0人	14人
法学部	－	12人	1人	1人	0人	0人	14人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		211人					211人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。） http://www.sgu.ac.jp/research/rm.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学の理念及び各学部学科・大学院各研究科の教育目標を踏まえ、教員が授業内容・方法を改善し向上させるために行う組織的な取組として活動を行っています。なお、会議は札幌学院大学FDセンター規程で定めた構成員が、年4回程度委員会を開催し授業改善方法などの諸課題を議論します。また、年数回の研究会では学外より講師を招いて情報共有を行ったり、学外開催の研修会等に参加して先駆的な取組み事例や自身の取組みをその場で発表するなどの活動を行っています。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	170人	142人	83%	680人	497人	73%	若干名	2人
経済学部	150人	180人	120%	600人	555人	92%	若干名	0人
人文学部	230人	191人	83%	1,120人	821人	73%	10人	0人
心理学部	95人	117人	123%	190人	215人	113%	若干名	0人
法学部	150人	102人	68%	600人	441人	73%	若干名	0人
合計	795人	732人	92%	3,190人	2,529人	79%	10人	2人
(備考) 人文学部臨床心理学科以外の編入学定員は、「欠員の範囲」で「若干名」								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営学部	108人 (100%)	0人 (0.0%)	100人 (92.6%)	8人 (7.4%)
経済学部	70人 (100%)	1人 (1.4%)	63人 (90.0%)	6人 (8.6%)
法学部	80人 (100%)	1人 (1.3%)	58人 (72.5%)	21人 (26.3%)
人文学部	186人 (100%)	3人 (1.6%)	143人 (76.9%)	40人 (21.5%)
社会情報学部	3人 (100%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)
合計	447人 (100%)	5人 (1.1%)	365人 (81.7%)	77人 (17.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 札幌学院大学大学院臨床心理学研究科、札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科、北海学園大学大学院法学研究科、北海道セキスイハイム株式会社、株式会社もりもと、株式会社エイチ・アイ・ディ、北海道旅客鉄道株式会社、トヨタ部品北海道共販株式会社、株式会社モロオ、大丸株式会社、株式会社アインファーマシーズ、札幌中央信用組合、苫小牧信用金庫、株式会社ゆうちょ銀行、旭川信用金庫、日本赤十字社、株式会社カナモト、恵庭商工会議所、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、道内市町村職員、北海道警察、北海道職員、公立学校教員				
(備考) 2019年5月1日現在(文部科学省学校基本調査より)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経営学部	120人 (100%)	92人 (76.7%)	4人 (3.3%)	21人 (17.5%)	3人 (2.5%)
経済学部	93人 (100%)	63人 (67.8%)	3人 (3.2%)	23人 (24.7%)	4人 (4.3%)
人文学部	214人 (100%)	164人 (76.7%)	17人 (7.9%)	25人 (11.7%)	8人 (3.7%)
法学部	101人 (100%)	73人 (72.3%)	8人 (7.9%)	16人 (15.8%)	4人 (4.0%)
合計	528人 (100%)	392人 (74.2%)	32人 (6.1%)	85人 (16.1%)	19人 (3.6%)
(備考) 2019年3月31日現在(2019年度前期末卒業生は除く) 2019年度末で卒業した学生が入学した『入学者数』から『卒業・留年・退学除籍』『その他(休学者)』を2019年度末人数として表示しています。					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 学生に配布している履修要項に、1年間の授業カレンダーとして掲載し授業計画を公表するとともに、個別の授業内容についてシラバスに掲載して公表しています。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本学のホームページに学校教育法施行規則第172条の2第1項で定めた情報公開として、「学位と卒業要件・成績評価基準」について公表しています。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	124 単位	有	192 単位
	会計ファイナンス学科	124 単位	有	192 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	186 単位
人文学部	人間科学科	124 単位	有	192 単位
	英語英米文学科	124 単位	有	192 単位
	臨床心理学科	124 単位	有	192 単位
	こども発達学科	124 単位	有	192 単位
心理学部	臨床心理学科	124 単位	有	192 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	192 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：履修要項に記載し、履修指導の他成績優秀者、留学や奨学金受給などの判定基礎資料として活用しています。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：奨学生に対する適格認定の判定基礎資料として活用していきます。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。）	
【キャンパスマップ】 http://www.sgu.ac.jp/information/do050b00000007r3.html	
【第1キャンパス フロアマップ】 http://www.sgu.ac.jp/information/floormap_ebetsu.pdf	
【第2キャンパス（総合グラウンド）フロアマップ】 http://www.sgu.ac.jp/information/floormap_ground.pdf	

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経営	会計ファイナンス	740,000 円	120,000 円	180,000 円	その他は 教育充実費
	経営				
経済	経済				
人文	人間科学				
	英語英米文学				
	臨床心理				
	こども発達				
心理	臨床心理				
法	法律				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 本学のホームページに学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項で定めた情報公開として、「学生の支援」について掲載しています。具体的な取り組み内容は、学習支援としてレポートや論文などの書き方や、英語の勉強をサポートする T A や S A を細かく配置しています。また、障がい学生支援として個々の障がいの状態に応じて、本人の申請により講義中のポイントテイク、ノートテイク及びパソコンテイクによる講義情報保障を行うと共に、肢体不自由学生には申請により通学介助も行っています。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 低学年では自分を知り、将来について考えることを意識する機会を設けています。キャリア教育に関する科目（職業と人生 A、職業と人生 B、職業と人生 C、職業と人生 D、キャリアデザイン演習 A、キャリアデザイン演習 B、企業の経営と仕事、職業を知る、ビジネス演習 A、ビジネス演習 B、キャリアマーケティングなど）を開講し、1 年次より学生の職業観醸成とキャリア形成を支援しています。さらに、学生が自身の能力把握と進路選択・職業選択に活用できるように、1 年次よりコンピテンシー検査（企業が求める業績・成果に対する行動・思考特性を科学的に分析する検査）を 3 年次まで実施し、実施後は結果の活用方法について解説を行っています。</p> <p>進路に関わる相談窓口であるキャリア支援課では学生一人ひとりの適性を細かく把握できるように、学科ごとに担当職員を配置し進路相談と就職指導を行っており、合わせて 3 名のキャリアアドバイザーによる、履歴書・エントリーシートの添削や面接指導などの個別指導も行っています。</p> <p>学生が社会で必要とされている能力や自身の適性を知ることが目的とするインターンシップ（就業体験）についてもキャリア支援課が事務局となり受入先企業の開拓、学生と企業・団体とのマッチングを行っています。</p> <p>就職活動に関しては、自宅からでもインターネット上で大学に届いた求人情報や OB 在社データを確認できる「就職支援システム」を構築し、北海道外の企業の受験に際して旅費の半額を補助する「道外企業採用試験受験旅費支援制度」を設け、学生をソフト、ハードの両面から支援しています。</p> <p>秋には 3 年生に対し、内定者体験報告会や OB・OG 懇談会、業界研究会を開催し、社会で活躍している卒業生の話聞く機会や業界・企業の理解を深める機会を提供しています。合わせて、学生の就職先のミスマッチを防ぐために外部機関と連携し求人票の見方や、ワークルールについても学ぶ機会を設けています。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学生が心身ともに健康的な学生生活が送れるよう「保健センター」及び「学生相談室」を設置しています。</p> <p>「保健センター」には、看護師資格を有する専任職員が常駐し、定期健康診断実施及び事後の健康指導、保健センター利用者への生活指導（外傷時の手当の方法の紹介や自炊学生への献立紹介等の栄養指導など）、医療機関への紹介、アルコールパッチテストの実施及び結果判定カードによる指導、世界エイズデーや世界禁煙デーなどの案内と啓蒙活動等の実施などを行っています。</p> <p>「学生相談室」には、臨床心理士の資格を有するカウンセラー 2 名（専門職員及び非常勤）を配置し、学生相談に対応しています。</p> <p>多様な背景をもつ学生の入学も増え、学生のカウンセリングのみならず、保護者、学内の教職員、地域・医療機関と連携するケースが多く、学生の心身の健康を保ち充実した生活が送れるように学生の問題解決に向けて、保護者、地域・医療機関を含めた学内外との連携を図りながら支援を行っています。さらに、学生相談室を利用し易くする目的として、月に 1 回『セラピードッグとのふれ合い』を開催している他、グループワークを含めた学生同士の交流の場として『ランチカフェテリア』や、心理教育として『ストレスマネジメント』、コミュニケーションが苦手な学生を対象とした『社会移行支援プログラム』を開催しています。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。）

<http://www.sgu.ac.jp/information/public.html>